

Kadokawa Comics A

In the battleground, there is no place for hope.
What lies there is just cold despair and a sin called victory,
built on the pain of the defeated.
The world as is, the human nature as always,
it is impossible to eliminate the battles.
In the end, killing is necessary evil-and if so,
it is best to end them in the best eff
iciency and at the least cost,
least time.
Call it not foul not nasty.
Justice cannot save the world. It is useless.



Fate/Zero フェイト/ゼロ 1



漫画 真じろう
原作 虚淵玄 TYPE-MOON
(ニトロプラス)

KCA345-1
角川書店



9784047157712



1920979005600

ISBN978-4-04-715771-2

C0979 ¥560E

定価:本体560円(税別)

発行:角川書店

聖杯戦争——それは、全ての願望を叶える
“聖杯”を手に入れんとする七人の魔術師が、
召喚した英霊^{セイバー}を駆使し命を懸けて争い合う
究極のバトルロイヤル。
「魔術師殺し」の異名を持つ衛宮切嗣は、
己の宿願のため、召喚した英霊「セイバー」らと共に
全てを賭して聖杯を巡る戦いに身を投じるのだが…。
「Fate/stay night」の希望へと繋がる、
大いなる運命の物語が今、幕を上げる！

1 Fate/Zero

Comic: SHINJIRO
Original Work: GEN UROBUCHI[Nitroplus]
/TYPE-MOON

TYPE-MOON
最新情報満載

Newtype
THE MOVING PICTURES MAGAZINE
毎月10日発売
「Fate/Zero」最新情報満載!!

YOUNG ANIME
月刊YOUNG ANIME
毎月4日発売
「Fate/Zero」好評連載中!!

コミックタイプ
毎月10日発売
「フェイト/エクストラ」「コハエース」
「ひびちかタイム」好評連載中!!

月刊エース
毎月26日発売
「Fate/stay night」好評連載中!!

コミックエース
毎月26日発売
「Fate/kaleid liner プリズマ☆イリヤ ツヴァイ!」
「Fate/Zero コミックアラカルト」
「MELTY BLOOD X」好評連載中!!

Fate/Zero ① ISBN978-4-04-715771-2

10月よりTOKYO MXほかにて

TVアニメ 放送開始!!

<http://www.fate-zero.jp/>

TYPE-MOON 10周年記念!

10 聖杯戦争フェア開催中!

詳しくは裏面&折り返しをチェック▶

2012.1.10
[土日祝日]
[当日消印有効]

©Nitroplus / TYPE-MOON・ufotable・FZPC



漫画 真じろう
原作 虚淵玄 / TYPE-MOON
(ニトロプラス)

KCA345-1
角川書店

©Nitroplus / TYPE-MOON・ufotable・FZPC

聖杯戦争フェア開催中! 応募券を集めて 豪華賞品をゲット!

- A賞 応募券5枚 セイバー美麗フィギュアコレクション...1名
B賞 応募券3枚 TVアニメ「Fate/Zero」スタッフ&声優直筆サイン入り台本...10名
C賞 応募券2枚 青・黒・白・赤・ゼロセイバー水着図書カード...各50名 計250名
TYPE-MOON公式モバイルサイト「まほうつかいの箱」との連動企画あり! 詳しくはHP (<http://www.comptiq.com/>)へ!



- 対象商品**
- 9月3日発売 「Fate/Zero」①
「Fate/stay night」⑩
9月26日発売 「フェイト/エクストラ」①
「Fate/Zero コミックアラカルト 群雄編」
「Fate/world guide」
10月4日発売 「Fate/Zero」②
10月8日発売 「Fate/kaleid liner プリズマ☆イリヤ ツヴァイ!」④通常版
11月26日発売 「Fate/Zero コミックアラカルト 乱雲編」
「MELTY BLOOD X」②
- 12月26日発売 「Fate/stay night」⑪
好評発売中 「Fate/stay night」①～⑩
「Fate/kaleid liner プリズマ☆イリヤ」全2巻
「Fate/kaleid liner プリズマ☆イリヤ ツヴァイ!」①～③
「Fate/Zero コミックアラカルト 開戦編」
「MELTY BLOOD」全9巻
「MELTY BLOOD X」①
※フェア帯のついた商品のみ対象です。
- 詳しい応募方法はここら

応募要項

フェア対象商品の帯についている応募券(コピー不可)を郵便はがきに貼り、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・希望賞品をご記入の上でご応募ください。1枚のはがきで1口のみ応募可能です。おひとり様何口でもご応募いただけます。既刊共通応募券のみ2枚以上使用できます。

宛先 ▶ 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-11-1
角川書店読者サービス係「聖杯戦争フェア」

応募締切: 2012年
1月10日(火) (当日消印有効)
※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。
※応募によって得られたお客様の個人情報は、賞品の発送および個人情報を含まない統計的な資料の作成目的のみに使用いたします。
※賞品を譲渡、転売しないことを応募・当選の条件とします。

TYPE-MOON公式モバイルサイト
「まほうつかいの箱」はこちらから

©TYPE-MOON
©cavia 2009
©CAPCOM CO.,LTD.2009
ALL RIGHTS RESERVED.
©2010 Marvelous Entertainment Inc.
©Nitroplus / TYPE-MOON・ufotable・FZPC



聖杯戦争フェア
応募券
Fate/Zero①



Fate/Zero

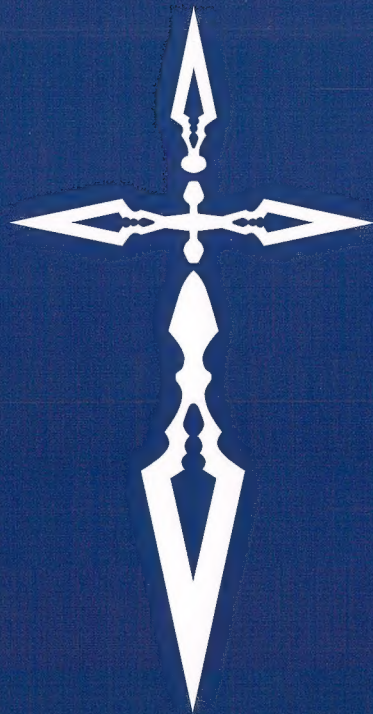
フェイト/ゼロ

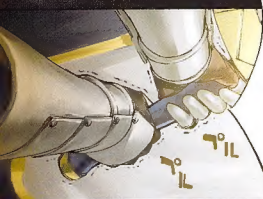


漫画 真じろう
原作 虚淵玄 / TYPE-MOON

11月25日発売

KCA345-1
角川書店





なぜ
何故だ!?



——よりも
あなた
よって貴方が

なぜ
何故ッ!?





第 1 話

A detailed illustration of Shirou Emiya from the Fate/stay night manga. He is shown in profile, looking down with a somber expression, holding a sword hilt in his mouth. He wears a dark coat with a blue and yellow collar. In the background, there are glowing blue magical energy swirls and a large, glowing yellow sword tip. The overall tone is dramatic and melancholic.

Fate

フェイト/ゼロ

漫画 真じろう

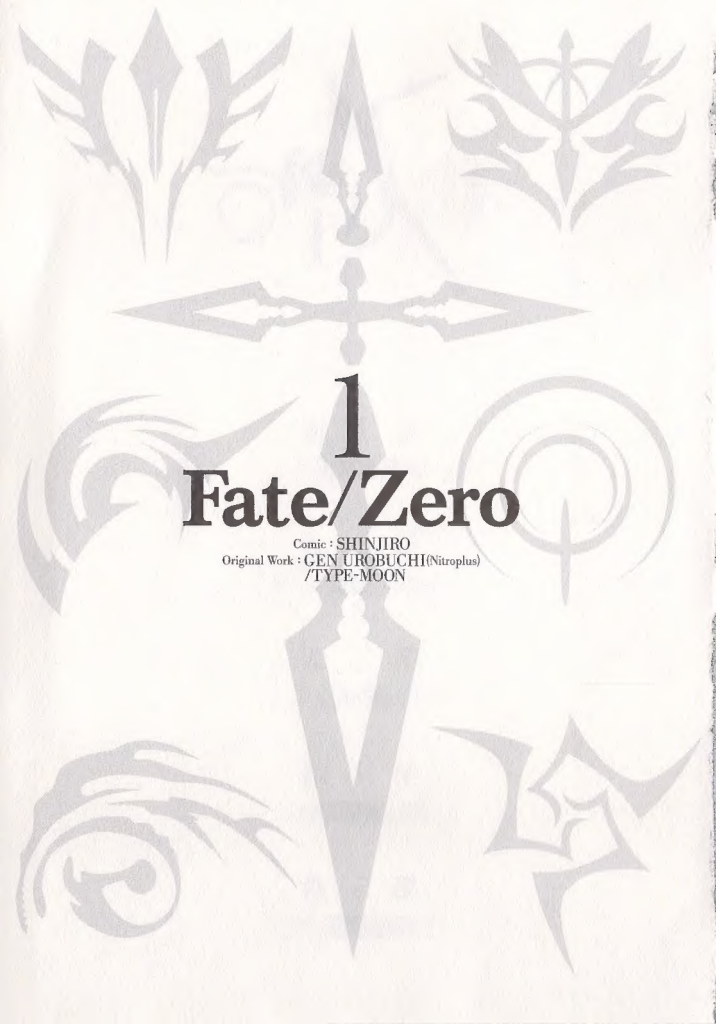
原作 虚淵玄 / TYPE-MOON
(ニトロプラス)



とある男の話をしよう
わたくし はじ

判

誰よりも理想に燃え
だれ よりも りそう も
それ故に絶望していた
ゆえ ぜつぼう
男の物語を
わたくし ものがたり



1 Fate/Zero

Comic : SHINJIRO

Original Work : GEN UROBUCHI(Nitroplus)
/TYPE-MOON

Fate/Zero
フェイト/ゼロ
1
Contents

第 1 話

001

第 2 話

037

第 3 話

089

第 4 話

121

第 5 話

161



男は
この世の誰もが幸せで
あって欲しいと願った

すべての少年が
一度は胸に抱き
捨てていく幼稚な理想

だが その男は違った



すべての生命が
犠牲と救済の両天秤に
載っているのだと悟り

決して片方の皿を
空にできないと
理解した時

彼は天秤の計り手
たろうと志を固めた



より多くより確実に
この世界から嘆きを
減らそうと思うなら
取るべき道は他になかった

故に彼は
誰かを救えば救うほど
人を殺す術に
長けていった

それは多数を生かすために
少数を殺し尽くすという行為

男は分け隔てなく人々を救い
分け隔てなく殺していった

手段の是非を問わず
目的の是非を疑わず
ただ無謬の天秤たれと



全ての^{みな}人を^{ひと}等しく
公平に尊ぶならば
それは誰一人として
愛^{あい}さないと同じこと

だが彼は
気付くのが遅すぎた

若い心を凍らせ壊死させ
血も涙もない計測機械として
自身を完成させていたなら
苦悩も無かっただろう



誰かが歓喜する笑顔は
彼の胸を満たし
誰かの慟哭する声は
彼の心を震わせた

無念の怨嗟には
怒りを供にし
寂寥の涙に手を差し伸べ
ずにはいられなかった



人の世の理を
超えた理想を追い
求めておきながら――

彼はあまりにも
人間すぎた



そんな愚かな
男の物語を

我らアインツベルンは
一〇〇〇年より昔から
聖杯の奇跡を
追い求めてきた

二〇〇年前には
独力で成就を諦め

アインツベルン城礼拝堂

その道程は困難を極め
幾度となく挫折を
繰り返した

遠坂とマキリという
外部の家門との協定を
余儀なくされ……

そうして始まった
聖杯戦争でも
マスターの力が及ばずに
一度として勝利できなかった

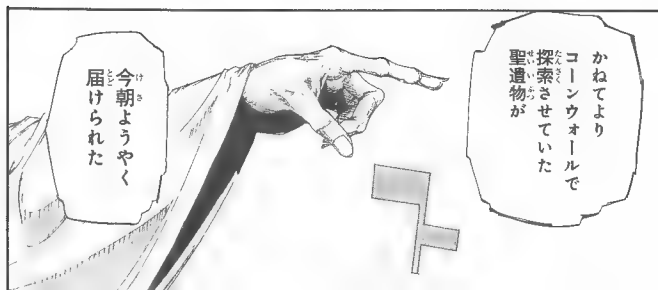
衛宮切嗣よ

魔術師殺し——





-282:14:28



この品を媒介とすれば

剣の英霊として
およそ考える限り
最強のサーヴァントが
招来されよう

切嗣よ

そなたに對する
アインツベルンの
これは最大の
援助と思うが良い

痛み入ります
当主殿

アイリスフイールよ
器の状態は？

何の問題もありません

冬木においても
つつがなく
機能するものと
思われます

うむ……



こんど
今度ばかりは
ただの一人
たりとも残すな



御意に



必ずや第三魔法
ヘンズファイル
天の杯を成就せよ！

六のサーヴァント
総てを狩りつくし

いい
良いだろう

お望み通り

あんたの一族が
追い求めた聖杯は
この手で完成させてやる

だが

それだけでは

終わらせない

万能の釜の力を以て
僕は僕の悲願を遂げる……

成就

もはや聖杯の中身にも興味はないのかい

アインツベルンは
・〇〇〇年の彷徨の末に
手段と目的を
履き違えるまでになったか……



まじか

本当に
こんなものを
見つけて
くるなんて…

…なんてこった
疵きず一つない

これが一五〇〇年だんも
前の時代じだいの
発掘品はつこくしんだって？



これ自体が一種の
概念武装ですもの



物質として
当たり前
に
風化することは
無いでしょうね

聖遺物として
召喚の媒介に使う
までもなくこれは
魔法の域にある宝物よ



装備しているだけで
この鞘は伝説の通りに
持ち主の傷を癒し
老化を停滞させる…

もちろん
本来の持ち主
からの魔力供給が
必要だけれど



つまり——
呼び出した英霊と
対にして運用すれば

これ自体を
マスターの宝具
として活用できる
わけだな



それを言うなら
サーヴァントに
してもそうだ



あなたらしいわね
道具はどこまでも
道具というわけ？



どんな英雄も
サーヴァントとして
召喚されれば
マスターにとっては
道具も同然



そこに妙な幻想を
持ち込む奴は
きつとこの戦いには
勝ち残れない

そんなあなたにこそ
この鞘は相応しいと

それが大老爺様の
判断なのね

おお
大老爺様の
贈り物がご不満？

まさか
御老体は
よくやつてくれた

他にこれほどの
切り札を手にした
マスターはいないだろうさ

ミ
果たして
そうなんだろうか？

じゃあ
何が
いけない
の？

これだけ完璧な
縁の品があるなら
間違いなく目当ての
英霊が召喚に応じる

マスターである
僕との相性などは
二の次にしてね…

つまりあなたは
「騎士王」との契約に
不安があるのね

当然だろう

およそ僕ぐらい
騎士道なんでものと
程遠いところにいる
男はいないぜ

正面切っつの
決闘なんて
僕の流儀じゃない

それが生存戦
ともなれば
なおさらだよ

狙うとしたら
寝込みか背中だ

時間も場所も選ばずに
より効率良く
確実に仕留められる
敵を討つ

「そんな戦法に
高潔なる騎士サマが
付きあってくれるとは
思えないからね」

正直なところ
「キヤスター」か
「アサシン」の方が
よほど僕の性に
合ってたよ

「でも
惜しいんじゃない
かって？」

「セイバー」

「ランサー」

「キヤスター」

「アサシン」

「ライダー」

「アーチャー」

「バーサーカー」

「聖杯が招く
七つの座のうちで
「セイバー」は最強と
されてる」

そこにかの騎士王が
据えられるとなれば…

干

これは
さいこう
最高のカードよ

二
三
四



……
策^{さく}が閃^{ひらめ}いたよ

最強^{さいきやう}のサーヴァントを
最強^{さいきやう}のままに
使^{つか}い切^きる方法^{ほうほう}が

-270:08:57



閉^みじよ

閉^みじよ

閉^みじよ

閉^みじよ

閉^みじよ

繰り返すつどに五度
ただ満たされる
刻を破却する

素に銀と鉄
礎に石と契約の大公

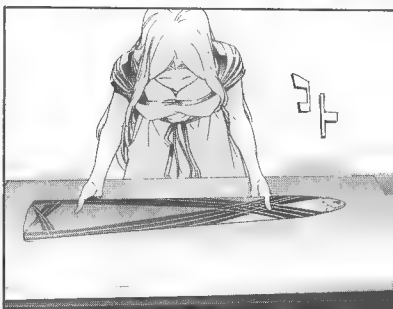
祖には我が大師
シユバインオーグ

降り立つ風には壁を

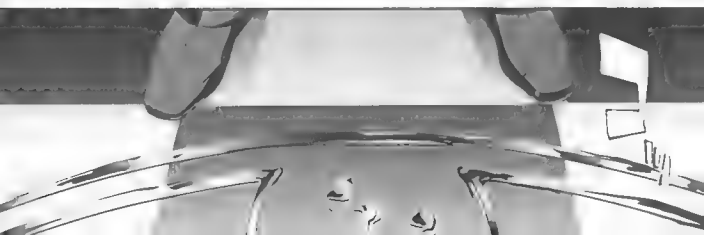
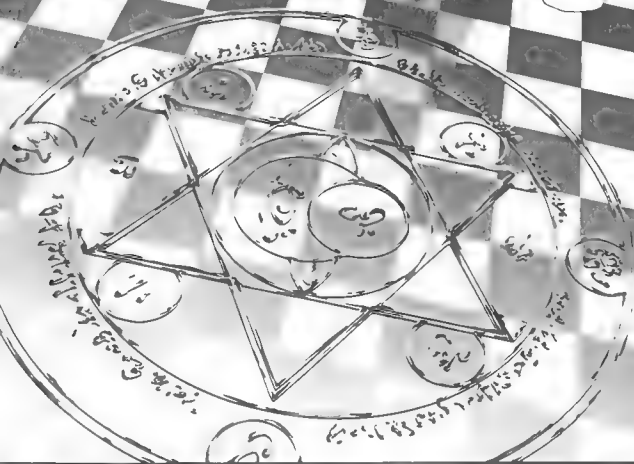
四方の門は閉じ
王冠より出で

王国に至る
三叉路を循環せよ



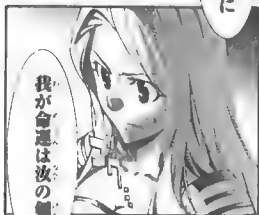


さあ
これで準備は完璧だ





汝の身は我が下に



我が命運は汝の腕に



聖杯の寄るべに従い



この意、この理に
従うならば応えよ



告げる――

呪



誓いを此処に――



我は常世總ての善と成る者

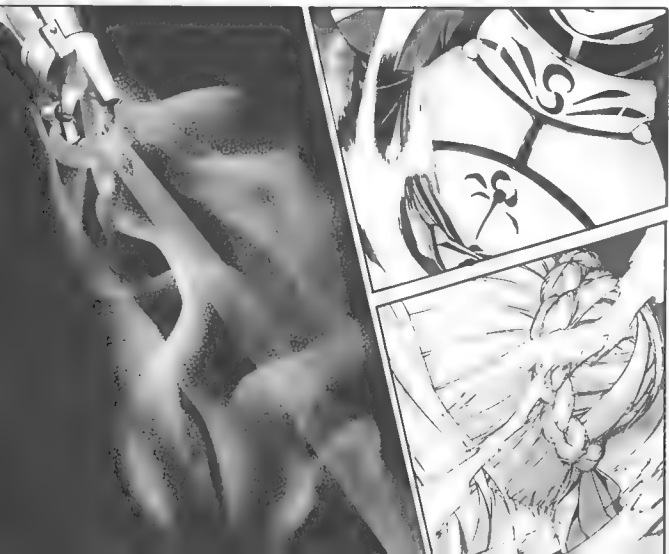
我は常世總ての悪を敷く者



汝二人の言葉を纏う七天

よくし
抑止の輪より来たれ
てんびん
天秤の守り手よ——！











問おう



なんじ
汝が我を招きし
マスターか

さんねんまえ
三年前

第 2 話

神秘学に従えば――

この世界の外側には
次元論の頂点にある
力がある

イタリア トリノ

それが
全ての魔術師の
悲願たる

「根源の渦」

あらゆる出来事の
発端とされる座標

この世の全てを記憶し
この世の全てを作れる
という神の座だ

万物の始まり
にして終焉

二〇〇年前

そんな
世界の外へと
至る試みを
実行に移した
者たちがいた

アインツベルン

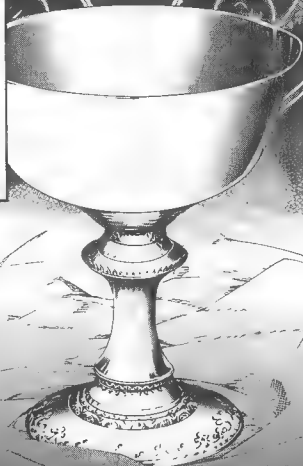
マキリ

遠坂

あらゆる願望を
実現させるといふ
聖杯の召喚を期して

彼ら『始まりの御三家』は
幾多の伝承に語られる
『聖杯』の再現を企てた

三家の魔術師は
互いの秘術を提供しあい
ついに万能の鎗たる
聖杯を出現させた



……だが
その聖杯が叶えるのは
ただ一人の人間の
祈りのみと知るや否や

協力関係は血で血を洗う
闘争へと形を変えた

これが「聖杯戦争」の始まりだ

以来、六〇年に一度の周期で
聖杯はかつて召喚された
極東の地「冬木」に再来する

聖杯はそれを手にする
権限を持つ者として
七人の魔術師を選抜し

「サーヴァント」と呼ばれる
英霊召喚を可能とさせる

七人のいずれが
聖杯の担い手として
相応しいか――

死闘を以て
決着させるためにだ



君のその右手に
顕れた紋様は
『令呪』と呼ばれる

聖杯に選ばれた証

サーヴァントを
統べるべくして
与えられた聖痕だ

.....



聖杯戦争の実態は
サーヴァントを
使い魔として
使役する戦いだ

よってマスターには
相応の魔術の素養が
必要になる

…本来なら
聖杯が選ぶ七人は
皆魔術師である
はずなのだが



君のように魔術と
縁のないものが
これだけ早期に
聖杯から
見初められる――

――というのは
極めて異例の
ことだろうな



英霊とは
歴史や伝承に名を残す
伝説の超人・偉人…
神にも等しい
霊格の存在です

「それを召喚して
使い魔にする」
というのは…

…先ほどから仰っている
サーヴァントというのは
いったい何でしょうか

信じがたい話
だとは思いますが
事実だ

聖杯の力の
ほんの一欠片で
そんな不可能を
可能にしてしまう

アレがどれほど
途方もない宝具か
分かるだろう

近くはたかだか
百年程度の過去

遠くは神代の太古から
英霊は召喚される

七人の英霊は
それぞれ七人の魔術師
——マスターに従い

己がマスターを守護し
敵であるマスターを駆逐する

あらゆる時代
あらゆる国の英雄が
現代に降り
覇を競い合い戦し合う



そんな
大それたことを？

何万人もの
住民がいる人里で？



それが冬木の
聖杯戦争なんだ



それを徹底させるため
我ら聖堂教会から
監督役が派遣される

聖杯戦争による災厄を
最小限に抑え
その存在を隠蔽し
魔術師たちには
暗闘の原則を守らせる



対決は秘密裏に行う
というのが暗黙の掟だ

魔術師の闘争の
審判を教会が？

魔術師同士の闘争
だからこそだ

魔術協会の人間では
派閥間の利害が絡み
外部の権威に頼る他
なかったわけだ

加えてその発端が
聖杯の名を冠された
宝具とあつては
我ら聖堂教会も
黙つてはいられない

それが神の御子の
血を受け止めた
本物かもしれないからな

待つてください

教会の監督役とは
公平を期すための
人選なのでは…？

そこはそれ

まあ
ルールの盲点と
言つたところか



言峰さん
息子さんを
困らせてはいけない

そろそろ本題に
入りましょう



フム
そうですね

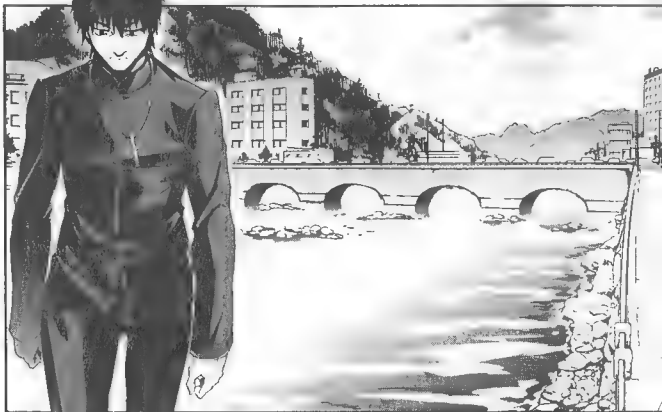


綺礼

ここまでの話は全て
聖杯戦争を巡る
表向きの事情
に過ぎん



……と
言いますと？



なぜ私が――？



私には
目的意識
という
ものが
まるで
ない

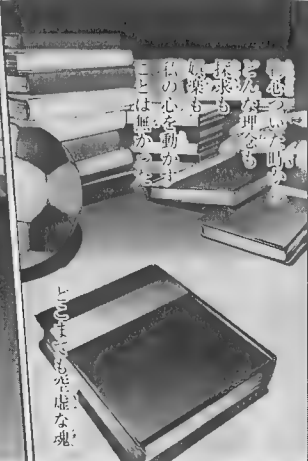
私には理想も
願望も……



より神聖なる福音に
救われるものと信じ
その希望に賭けて、続った

左がそねは「
自分には熱い心
がある」と

いつの間か
より熱い心なる神の真理に
心かかると



心をついた山み
どんないまも
探求も
私のもを動かす
ことは無かった

と、まともな虚な魂



もはや自分
という人間は
神の愛を
もってしても
救いきれぬと

…本当は
理解していた



怒り絶望し
修身の苦行という名の
自傷行為を
繰り返してきた

そうして、心に入ってきたのは
救いすべしを求め
心と体を鍛えぬ



わからない……

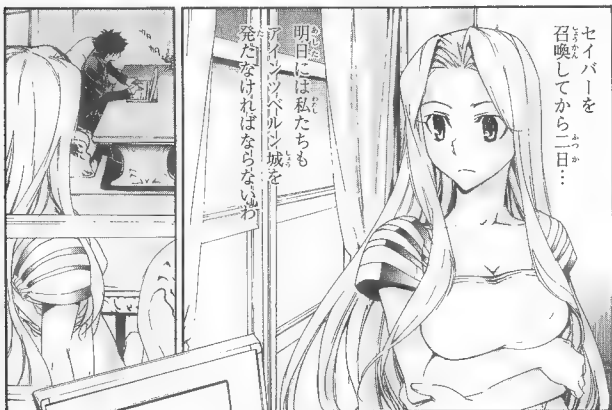


聖
統
の
力
能
の
願
望
機
が
私
を
選
ん
だ
理
由
と
は
一
作





-221:36:01



セイバーを
召喚してから二日…

明日には私たちが
アイントバル城を
発たなければならないわ



…何を
見てるの？

ロンドンの時計塔に
潜り込ませていた
連中からの報告だ

こんど
今度の聖杯戦争の
マスターについて
調べさせて
いたんでね



聖杯は
アインツベルン 遠坂
いまは間桐と名を変えた
マキリ――



三年前から
魔術師である
遠坂時臣に師事し



その後、
令呪を授かった
ことで師と決裂

……言峰綺礼

一九六七年生まれ

（読み）

幼少期から父・璃正の
聖地巡礼に伴い、
八一年にはマンレーサの
聖イグナチオ神学校を
卒業……



二年飛び級で
しかも首席？

大した人物の
ようね

ああ



このままだと
枢機卿にでも
なりかねない
勢いだったが

ここで
出世街道を外れて
聖堂教会に
志願してる

他にいくらでも
展望があったのに

何故

よりによって教会の
裏組織に身を落とす
ような真似をしたのか



最終的には
父と同じ部署に
落ち着くが

その前に三度も
所属を変え十代で
『代行者』にまで任命
されたこともある

あの異端討伐の
殺人部隊にだぞ

生半可な根性で
できることじゃない

狂信者だったんじゃないかしら

純粹過ぎて
信仰にのめり込む
こともあるわ

違うだろうな……

それだと
ここ三年
こいつの近況が
納得できない

異端である魔術協会
への出向なんて
無理な相談だろう

教義でなく組織に
忠義を誓っていたの
かもしれないが

だとしても
ここまで本気に
魔術に打ち込む
理由はないはずだ

取得した
カテゴリーは
錬金降霊
召喚ト占……

治癒魔術に
ついては
師すら
超えている

この積極性は
何なんだ？

ねえあなた

たしかにこの
綺礼きれいというのは
変わり者のよう
だけれど

そこまで注目
するほどの
男なの？

いろいろと多芸たげいを
身につけてる
みたいだけれど

格段かくだんに際立きわつたものは
何なにもないじゃない

ああ

そこがますます
引ひつかかるんだよ



この男は何をやらせても
超一流には至らない

どこまでも普通な
凡人なんだよ

そのくせ努力だけで
辿りつけるレベルまでの
習熟は恐ろしく早い

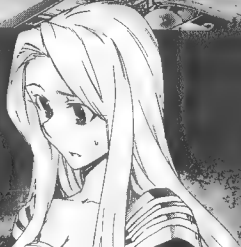
おそらく他人の
数十倍もの鍛錬を
こなしてるんだ



そうやって
あと一歩の
ところまで
突き詰めて

そこから
何の未練もなく
次のジャンルに
乗り換える

まるでそれまで
培ってきたものを
屑同然に
捨てるみたいに



……他の
マスターよりも
貴方にとっては
この男の方が
強敵だと？

誰よりも激しい
生き方ばかりを
選んできた
くせに

この男の人生には
ただの一度も
情熱がない

この男はきつと
何も信じていない

ただ答えを得たい一心で
あれだけの遍歴をして
結局何も見つけられ
なかった

こいつの心の中は
怒りと絶望だけ

願望と呼べるものは
何一つ持っていないだろう

そんな底抜けに
虚ろな人間が
どうして
命を賭してまで
聖杯を求める？

こいつは——
きつと危険なヤツだ

……聖堂教会の
意向ではないの？

あの運中は
聖杯を聖者縁の品と
勘違いして狙っている
っていう話よね

いいや
たかがその程度の
動機しかない人間に
聖杯は令呪を授けない



この男はマスターとして
聖杯に選ばれた

聖杯を
手にするだけの
由縁を持ち合わせて
いるはずなんだ

それが何なのか
まるで見えないのが
恐ろしい

こんな虚ろで
願望の無い人間が
聖杯を手にしたら
どうなる？

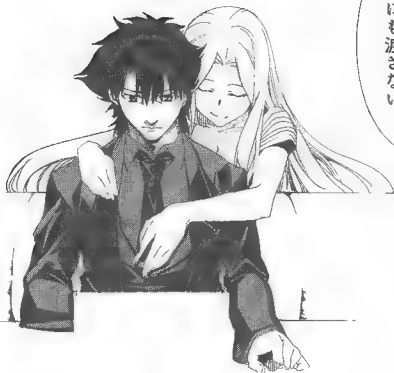


この男の生涯は
絶望の積み重ねだけで
出来ている

願望機としての
聖杯の力を
その絶望の色で
染め上げる
かもしれない



私の預かる
聖杯の器は決して
誰にも渡さない



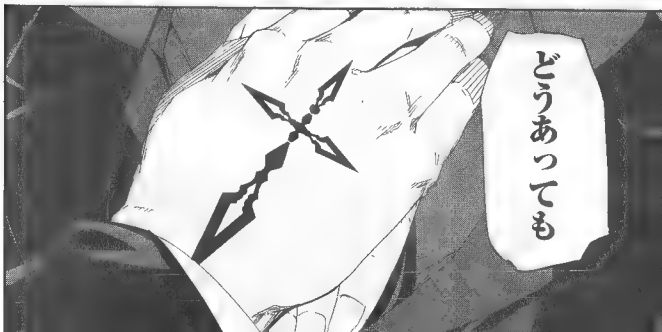
聖杯の満たされる時
それを
手にするのは――

切嗣
あなただけよ

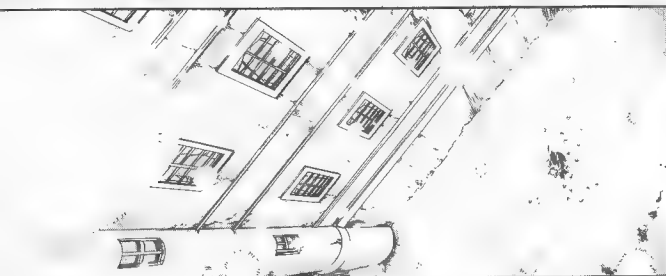
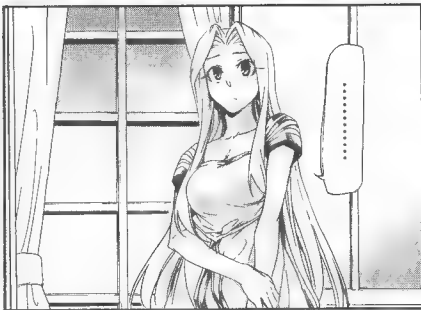
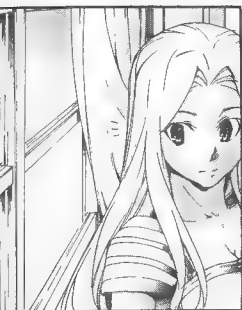




負けられないな



どうあっても









アイリスフィール

もやーり

さすが
エクスカリバーの担^にい手
アーサー・ペンドラゴンね



しっ…
失礼しました

これから戦いに
なりますから

城の剣を
お借りし
ています

体を
動かしておきたい
と思っただけ

気にしないで

不用意に
近づいた
私が悪いん
ですから

申し訳
ない…

そうですか

イリヤのところに

明日には日本に
出立ですもの

…切嗣はどうして
いますか？

やつぱり
切嗣の態度が
不満？

……忌憚なく
言わせていただければ

私のマスターは
もっと冷酷な
人物だという
印象がありました

しかし切嗣の
アイリスフィールや
ご息女への接し方
を見ていると……

私はよほど
イ具を買ったの
でしょうね

これが…

伝説の
アーサー王!?



問いかけも 切黙殺され
視線すら合わそうとしない

切嗣！

召喚されて以来
言葉を交わすことはおろか

アイリスフィール
なにも笑うことは
ないでしょう

…ごめんなさいね

召喚された
時のこと
まだ額に持ってる
のかなと思うて

いささか

私の姿形が
みなとの想像と違う
というのは
慣れています……

確かに私は男として
振る舞っていましたし

……その嘘が嘘として
後の歴史に伝えられずに
済んだのは本懐ですが

私があのかの鞘の持ち主
だと疑われたのは
正直不愉快でした

そうは
言ってもね
仕方がないのよ

あなたの伝説は
あまりに有名
すぎるし

それが一五〇〇年
も
かかって
脚色されて
きたんだもの



容姿について
とやかく言われても
仕方がない

岩から契約の剣を
抜いた時点で
不老の魔法がかかり
私の外見年齢は
止まってしまいました

私たちが知ってる
アーサー王とは
イメージのギャップが
凄すぎて



そもそも
当時の臣民は
王の外見になど
疑問を抱いたり
しなかった

私に求められたのは
ただ王としての
責務を果たすこと
だけでしたから



切嗣には……

私の正体が
女であったが故に
侮られている
のでしょうか？

剣を
執らせるには
値せずと



……彼が腹を立てているとするならそれは別の理由でしょうね



それはないわ

彼にだってあなたの力は透視えている



腹を立てている？

セイバーの座を得た英霊をそんな風に見損なったりはしない



だからあなた個人に對しての怒りじゃないの

それこそ理解できない

彼とは未だに一度も口をきいたことがないというのに



私が切嗣を怒らせたというのですか？

きっと
彼を怒らせたのは
アーサー王伝説
そのものよ

多分あの人は
あなたの時代の
あなたを困らせていた
人たちに對して
腹を立てているのね

小さな女の子に
「王」という役目を
押しつけて良しとした
残酷な人たちに

それは是非も
ないことでした

岩の剣を
抜くときから
私も覚悟を決めていた

……そんな風にあなたが
運命を受け入れて
しまったのが尚のこと
腹立たしいのよ

その点に
ついてだけは
他でもない

——アルトリア
という少女に
對して怒っている
のかもしれないわ

しかしそれは
過ぎた感傷だ

だから黙ってるのよ
あの人は

私の時代の
私を含めた人間たちの
判断について
そこまでとやかく
言われる筋合いはない

!

衛宮切嗣と
アルトリアという
英雄とでは
どうあっても
相容れないと

——そうあきらめて
しまっているのね

たとえ言葉
かわしたところで
互いを否定し合う
ことしかできないと



アイリスフィールには
感謝しています

貴女の
「代理マスターとなる」
という申し出が
なければ



私は
今回の聖杯戦争に
戦わずして敗北して
いたことでしょう



それはお互いさまよ

私だって夫には
最後には聖杯を手
に
してほしいんだから

アイリスフィール
から見た切嗣は
一体どのような
人物なのですか？

夫であり
導き手

私の人生に
意味を与えて
くれた人

でもセイバーが
聞きたいのは
そういう話じゃ
ないわよね？

元を正せば
優しい人なの

ただあんまりに
優しくすぎたせいで
世界の残酷さを
許せなかったのね

それに
立ち向かう
として

誰よりも冷酷に
なろうとした
人なのよ

そういう決意は
私にも理解できる

決断を下す立場に
立つのであれば
人間らしい感情は
切り捨てて臨ま
なければならぬ

聖杯の力によって
世界を救済したい

——そう

アイリスフィールは
言いましたね？

それが貴女と
切嗣の願いだと

ええ
私のあの人の
受け売りで
しかないけれど

でもそれは
命を賭す価値が
あることだと思うわ

私が聖杯に託す
願いもまた同じです

この手で
護りきれなかった
ブリテンを
私は何としても
救済したい

……貴女と切嗣が
目指すものは
正しいと思います

誇って良い道だと

そう……

ズギ

……

アイリスフィール

貴女は切嗣という夫を深く理解し信頼しているんですね

貴女が夫婦が普通の家族としての幸福を得ていたらと思わずにはられない

でも切嗣もまた私に対して同じように考えているのであれば……

どちらも等しく詮無い望みなのでしょね

そう思っ
て切嗣を恨まずに
いてくれる？

勿論です

お

しかし
アイリスフィール

良いのですか？
ここで私などと
話していて

え？

つまり――

切嗣のように
ご息女との別れを
済ましておかなくて
良いのかと

ああ
そういうこと

——いいのよ
私とあの子^この間には
お別れ^{わかれ}なんて
必要^{ひつぎ}ないの

アイリスフィールとしての
私はいなくなっても
それで私が消えて
なくなるわけではない

彼女^{かのじょ}が
大人^{おとな}になれば
それはちゃんと
理解^{りかい}できるわ

あの子^こも私^{わたし}と同じ
アインツベルン^{ライン}の女^を
ですからね

アイリスフィール

.....?

あなた^{あなた}は必ず
生き残^{のこ}ります



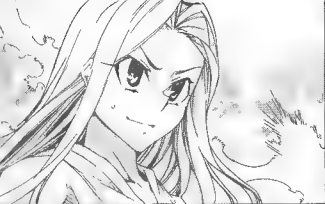




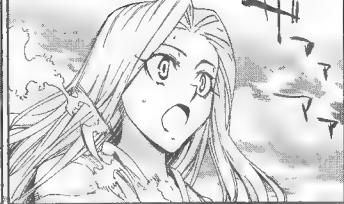
最後まで
私が守り抜く



この剣の
誇りに賭けて！



あなたと
あなたの
マスターの
ために



セイバー
聖杯を
手に入れて

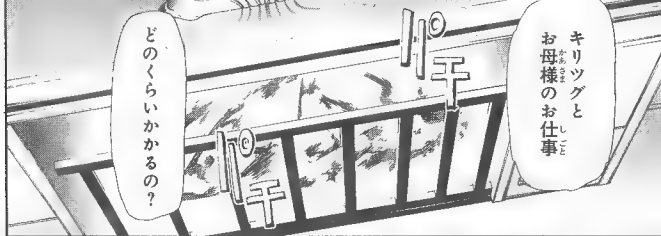


そのとき
アインツベルンは
千年の宿願を
果たし

私と娘は運命から
解放たれる

——貴女
だけが頼りよ

アルトリア！



キリツグと
お母様のお仕事

どのくらいかかるの？



いつ帰ってくる？

父さんは多分
二週間もすれば
戻ってくる

—母さんはその
だいぶん先になると
思うんだけど……

うん
イリヤも
お母様から
聞いたよ

永いお別れに
なるって

でもイリヤと
会えなくても
ずっとイリヤの傍に
いてくれるんだって

だからさびしく
なんかないって
ゆうべ寝る前に
教えてくれたよ

だからイリヤは
これからもずっと
お母様かあさまと一緒にいっしょなの

そうか…

……

遠とほからず
イリヤの成長は
止まるだらう

?

出陣の段階
で調整を受けた

それでも
自分の身の上を
不遇と思わないほどに

——なあ
イリヤ

幸さい多くあつて欲しいと
願うのはまじだらうか…

…キリツク?

ギョ



イリヤは
待ってられるかい？

父^{ちち}さんが
帰^{かえ}ってくるまで
さびしくても
我慢^{がまん}できるかい？



うん！
イリヤは我慢^{がまん}するよ

キリツグのこと
お母様^{おかあさま}と一緒に
待^{まち}ってるよ



……じゃあ
父^{ちち}さんも約束^{やくそく}する

イリヤのことを
待^{まち}たせたりしない



父^{とと}さんは必^{かなら}ず
すぐ^{かえ}に帰^{かえ}ってくる

必^{かなら}ず

告^つげる

に ほん ふゆ き し
日本 冬木市

—270:08:57

聖杯^{せいはい}の寄^よるべに從^{したが}い

この意^い この理^りに
從^{したが}うならば応^{こた}えよ

我^わが命運^{めいゐん}は汝^{なんじ}の劍^{けん}に

汝^{なんじ}の身^みは我^わが下^{もと}に



誓いを此処に

我は常世総ての善と成る者

我は常世総ての悪を敷く者



汝三大の言霊を纏う七天

抑止の輪より来たれ
天秤の守り手よ——！

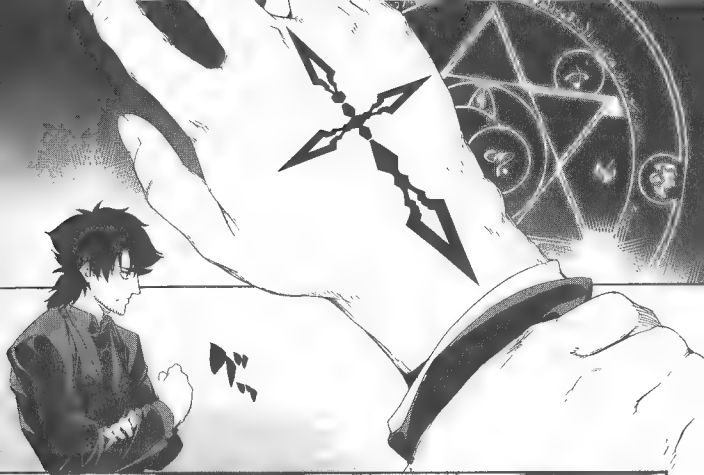






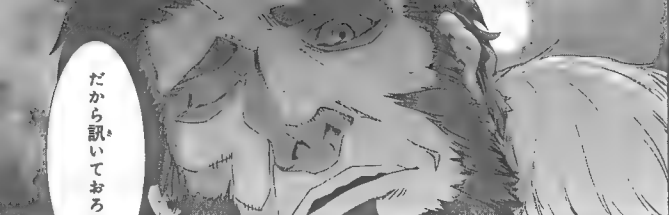
問^とおう

貴^{あなた}様^{さま}が余^よを招^{まね}きし
マスターか



第 3 話





だから訊いておろうが



貴様
余のマスターで
相違ないのだな？



マスターなん
だつてばッ!!

いや
なのだッ!

そ——そう!
ぼほほボクが
いやワタシが!
オマエのマスターの
ウウエイバー・
ベルベットです!



は？



だーから



本^{ほん}本^{ほん}だよ

よい

僕は腰を抜かしたのか？



うむ
じゃあ契約は完了と

では坊主
さっそく書庫に
案内してもらおうか

は？

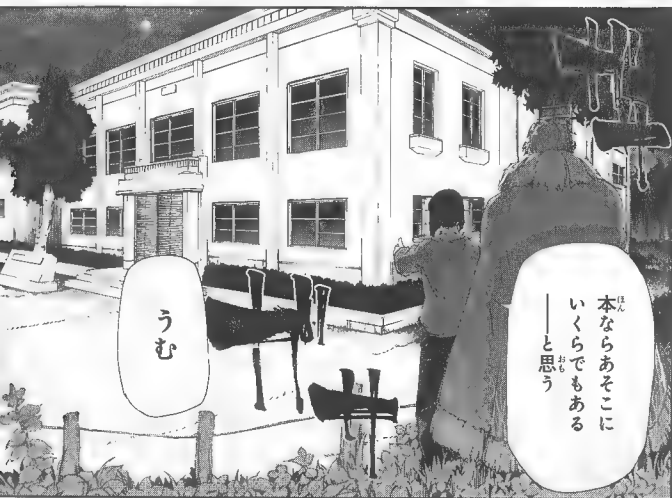


貴様も
魔術師の端くれなら
書庫のひとつやふたつは
設えておるのだろう？

さあ案内しろ
戦の準備が必要だ

い、孰……？

名古屋市中央図書館



ハア...

.....どうしてこうなる

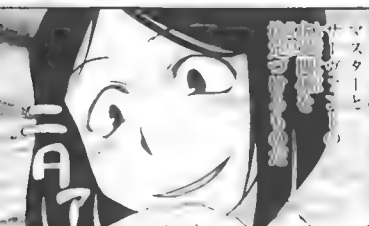
この天才である僕がこんな
醜態をさらしてしまうとは

いや

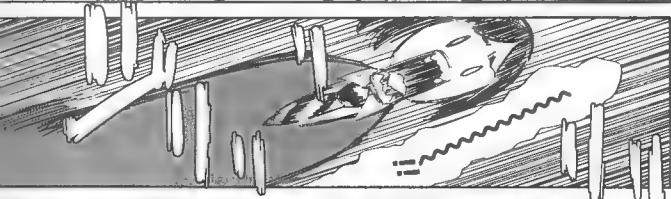
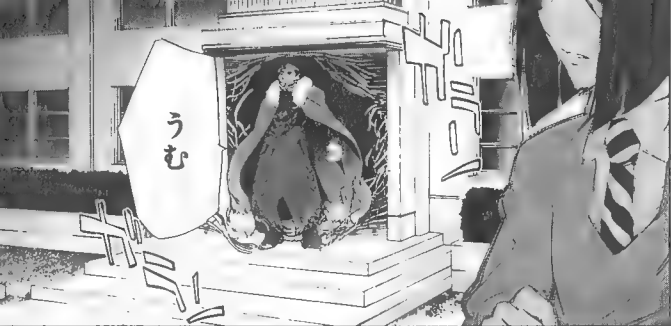
主導権は僕に
あるんだ

聖杯は勝ち残った
マスターだけでなく
非ヴァンダの願望をも
叶える

そしてサーヴァントは
マスターからの
魔力供給無しには
現界してゐられない
両者の利害は一致する







もたもたしてるな！

逃げる！

逃げるんだよ！

見苦しいぞ

うろたえるでない
まるで盗人か何かの
ようではないか

盗人じゃなくて
何なんだよオマエ！

大いに違う！！

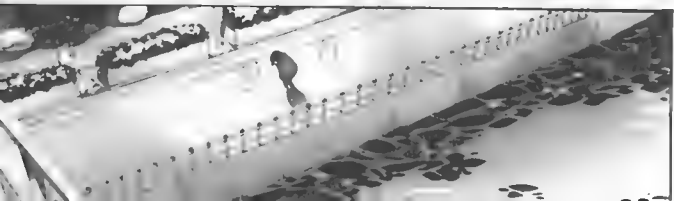
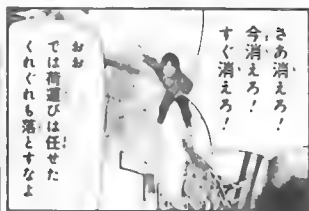
闇に紛れて逃げよる
のなら匹夫の夜盗

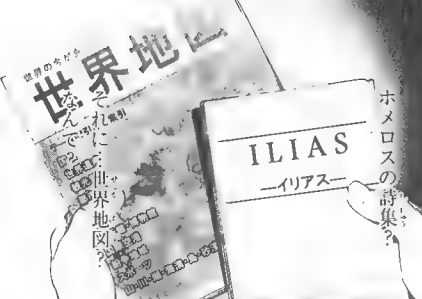
凱歌とともに
立ち去るならば
それは征服王の略奪だ

おせん

——もう！

~~~~~





なんでも世界は  
すでに地の果てまで  
暴かれていて  
おまけに球の形に  
閉じているそうだな…

それは行方不明な時代を  
中世からその時代までの神話と  
伝説がどれだけの知識を  
下も持っているはずだ

なんでも  
こればかりのことわざでま  
た地獄に落ちたんだ

成る程  
丸い大地を  
紙に描き写すと  
こうなるわけか…



で…おい坊主  
マケドニアと  
ペルシヤは  
どこだ？



わっはっはっ  
はっは!!



はははッ！  
小さい！

あれだけ駆け回った  
大地がこの程度か！

うむ！  
よし！

もはや  
未知の土地などない  
時代と言っからいささか  
心配しておったが……  
これだけ広ければ  
文句は無い！

よいよい！  
心高鳴る！

……では坊主  
いま我々がいるのは  
この地図の  
どこなのだ？



ほほう  
丸い大地の反対側か……

うむ  
これまた痛快

これで指針も  
固まったな

指針って？



まずは世界を半周だ

西へひたすら西へ  
通りがかった国は  
すべて陥としていく





そうやって  
マケドニアに凱旋し  
故国の皆に余の  
復活を祝賀させる

ふっふっふ  
心躍るであろう？



オマエ何しに  
来たんだよ！

聖杯戦争  
だろ！

聖杯！



そんなもの  
ただの手始めの話  
ではないか

何で  
その程度のことを  
わざわざ……

そうだ  
聖杯と言えばまず  
最初に問うておく  
べきだった

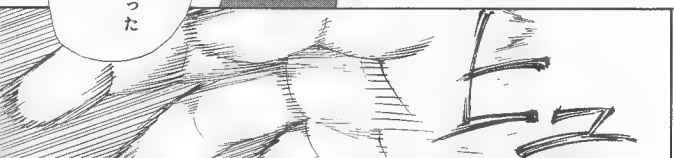
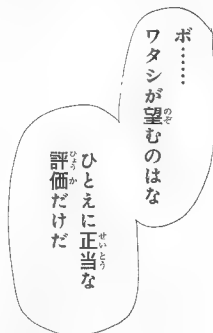
坊主<sup>はうず</sup>  
貴様<sup>あなた</sup>は聖杯<sup>せいはい</sup>をどう使う<sup>つか</sup>

な……何だ<sup>なん</sup>よ改<sup>か</sup>まつて？  
そんなこと訊<sup>き</sup>いてどうする？

そりや確<sup>たしか</sup>かめて  
おかねばなるまいて

もし貴様<sup>あなた</sup>もまた  
世界<sup>せかい</sup>を獲<sup>と</sup>る気<sup>き</sup>なら  
即<sup>すなはち</sup>ち余<sup>おれ</sup>の仇敵<sup>きうてき</sup>ではないか

はおう  
ふたり  
覇王<sup>はおう</sup>は二人<sup>ふたり</sup>と  
要<sup>い</sup>らんからな



小さいわ!!

阿呆らしい!

戦いに賭ける大望が  
己の活券を示すこと  
のみだと?

狭い!

小さい!

貴様それでも  
余のマスターか？

まったくもって  
嘆かわしい！

あ——う——

そうまでして他人に  
畏敬されたいのなら  
聖杯の力であと三〇回ほど  
背文を伸ばしてもらえ

そのぐらい  
目線が高くなれば  
大方の奴は見下して  
やれるだろうよ

この……

ヴァントの分際で

あなたの従僕に過ぎない癖にも

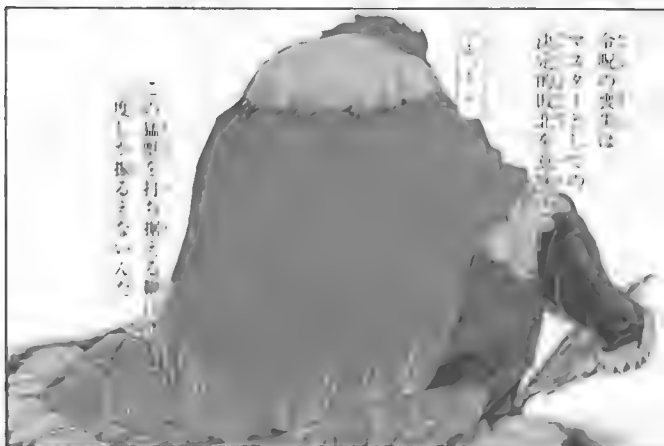
この……ッ

今晩に告げる――

聖杯の規律に従い

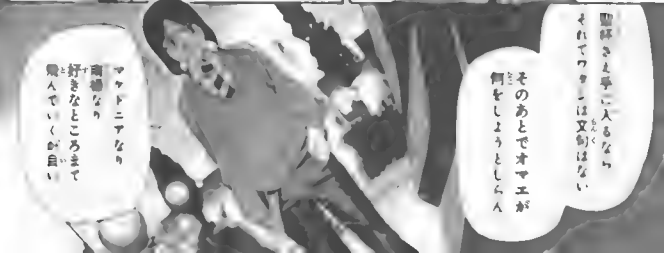
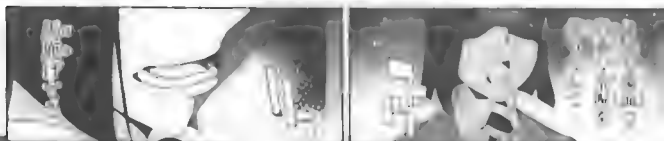
この者

我がサーヴァントに



合呪の喪失は  
マスターとしての  
決定的敗北を意味する

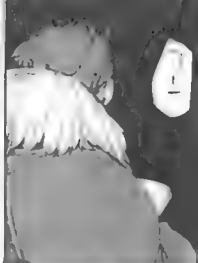
この怪物を打ち倒さる脚  
度しを憐れまない人か



聖杯を手に入らな  
それでワカレは又剣はない

そのあとでオマエが  
何をしようとしらん

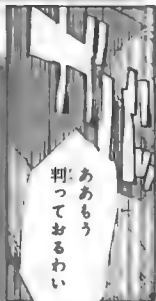
マケドニアなり  
商標なり  
好きなところまで  
飛んでいくがよい



……ともかくだ

オマエ ちゃんと  
優先順位は  
判つてゐるんだな？

真面目に聖杯戦争  
やるんだな？



ああもう  
判つておるわい

まず手始めに  
六人ばかり英霊を  
ぶちのめすところから  
であろう？

しち面倒な話だが  
たしかに聖杯が無ければ  
何事も始まらない



安心せい  
くだんの宝はちゃんと  
余が手に入れてやる

……随分自信が  
あるようだ オマエ



何か勘算はあるのか？

つまり貴様は  
余の力が見たいと？

そそうだよ  
当然だろ？

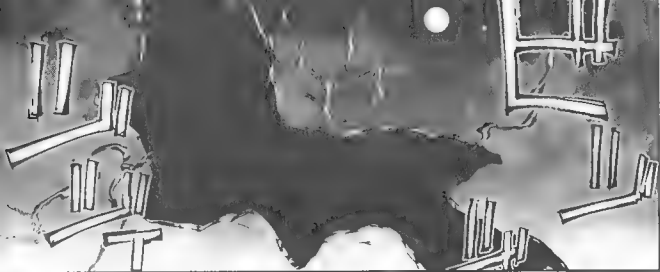
オマエを信用して  
いいのかわるか  
証明してもらわないとな



せいふくおう  
征服王イスカンダルが  
この一斬にて  
はけん  
覇権を問う







ゴルデ  
ディ  
アス  
ホ  
イ  
ール

# 神威の車輪!!



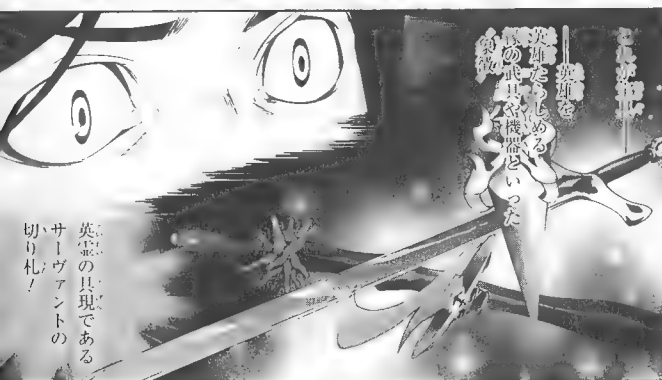




こうやって  
額の綱を切り落とし  
余はコレを手に入れた

ゴルディアス王が  
ゼウス神に捧げた  
供物でな

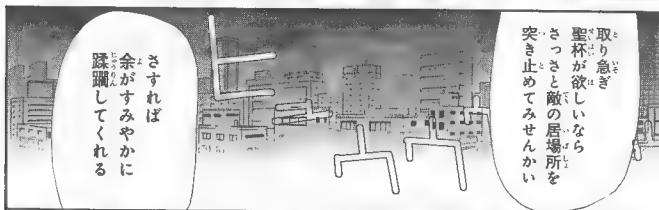
……余がライダーの  
座に据えられたのも  
きつとこいつの評判の  
せいであろうな





おいおい坊主

そう呆けたツラを  
晒していても  
始まらんだろうに



取り急ぎ  
聖杯が欲しいなら  
さっさと敵の居場所を  
突き止めてみせんかい

さすれば  
余がすみやかに  
蹂躪してくれる



——まあ文句は  
あるまい？

——そう……



それまでは地図でも  
眺めて無聊の  
慰めとするが——



世界地

ILIAS

ーイリアスー

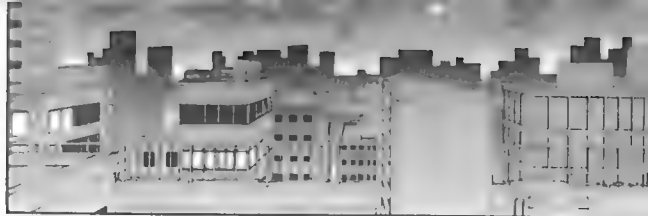


制服王  
マカィンダルだ

世界地圖

制服王

マカィンダルだ

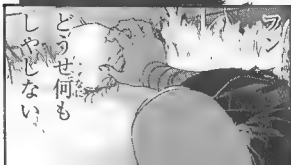
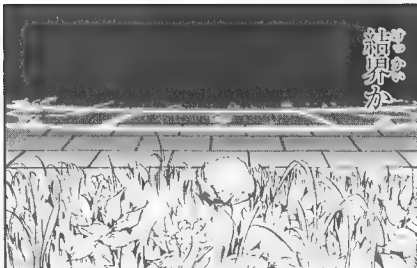


遠坂邸



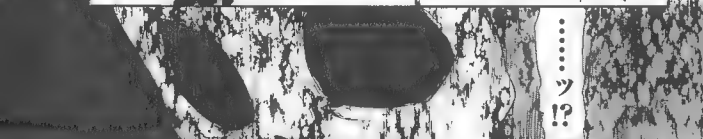
第4話



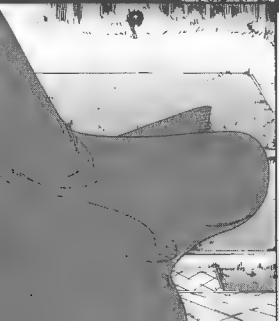




世  
の  
中  
に



.....  
ツ!  
!!



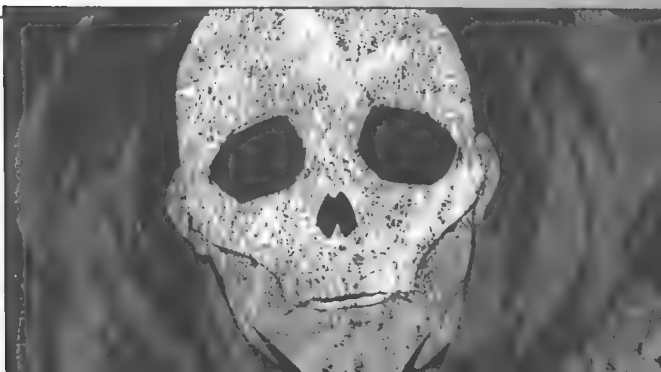
なつ.....

天下





地を這う虫ケラ風情が  
誰の許しを得て  
面を上げる？





貴様は我を見るに  
能わぬ

虫ケラは虫らしく  
地だけを眺めながら死ね

理解した——  
りかい

マスターの言葉に嘘偽りはない  
こまば うそいつはり

そう  
恐怖する余地すらもなく  
きょうふ よち

あんなにも圧倒的な  
敵の前では  
恐れるまでも——  
あつうてき





ただ絶望し  
諦めるしかないのだと



時臣  
ときおみ

随分とつまらぬ些事に  
我を煩わせたものだな



……お気に  
召されましたか？  
現代の世界は

度し難いほどに醜悪だ

がそれはそれで  
愛でもある

ただ肝心なのはここに  
私の財に加えるに  
値するだけの宝物が  
あるのかどうかだ

もし我が寵愛に  
値するものが  
何一つない世界で  
あったなら――

無益な召喚で我に  
無駄足を踏ませた  
罪は重いぞ 時臣

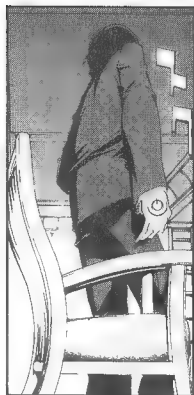
ご安心を

聖杯は必ずや  
英雄王のお気に召す  
ことでしょう

それは私が検めて  
から決めること

……だがまあ良い

この世の総ての財宝は私の物  
私の許しもなしに雑種どもが  
奪い合うなど見過ごせぬからな



恐縮であります  
王の中の王よ

今宵の仕儀は  
より煩瑣なお手間を  
かけぬよう今後に備えた  
露払いでございます

かくして「英雄王」の  
威光を知らしめた今  
もはや徒に嘯みついてくる  
野良犬もおりますまい

うむ

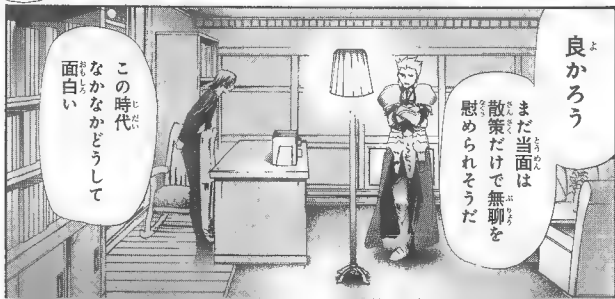
しばらくは  
野の獣どもを食い合わせ  
真に狩り落とすべき  
獅子がどれなのかを  
見定めます

どうかそれまで  
いましばらく  
お待ちを

良からう

まだ当面は  
散策だけで無聊を  
慰められそうだ

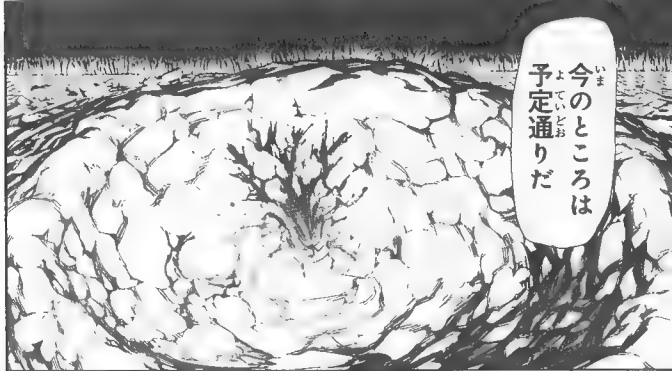
この時代  
なかなかどうして  
面白い





……やれやれ





いま  
今のところは  
よていとお  
予定通りだ



殺<sup>や</sup>られた？



アサシンが――

110 千円



ふうん



おいライダー  
進展だぞ

さっそく一人  
脱落だ



おい解ってるのかよ!

アサシンが  
やられたんだよ

もう喧嘩戦争は  
始まってるんだ!



……

おれは……



……おい



ふうん



あのなあ  
暗殺者ごときが  
何だと言うのだ？

隠れ潜むのだけが  
取り柄の鼠なんぞ  
余の敵ではあるまいに



それよりも坊主  
悪いのはコレだコレ

ほれ  
このB2とかいう  
黒くてデカイやつ

素晴らしい  
素晴らしい

ゴオオオ

コレを十機ばかり  
購入したいのだが  
どうか

その金で国を  
買い取った方が  
早いぞきつと

そうかあ  
やはり問題は  
資金の調達か……

どこかに  
ベルセポリスぐらい  
富んだ都があるなら  
手っ取り早く略奪  
するんだがのう

……  
片手を入れたら  
胃潰瘍になっちゃうかも

取りあえず  
このクリントンとかいう  
男が当面の敵だ  
ダレイオス王以来の  
手強い敵になりそうだ

ダレイオス王  
クリントン  
男  
手強い敵  
取りあえず  
このクリントンとかいう  
男が当面の敵だ  
ダレイオス王以来の  
手強い敵になりそうだ

大配給所のスギヤを倒す  
後も見せずに逃げたので  
アサシンが  
先に脱落してくれたのは  
有り難い

モリヤ、アサシン  
アサシンの大配給所に  
そして暴れた方が能く  
ハサカは  
力押しだけで充分に  
しるを取りは行ける

あとは  
キヤスターの  
正体さえ  
突き止めれば…

—で  
アサシンはどう  
殺られた？

たぶんトオサカの  
サーヴァント……  
だと思っ

姿勢好<sup>しやうこう</sup>といい  
攻撃<sup>こうげき</sup>といい  
やたらと金ピカで  
派手な奴だった

ともかく一瞬<sup>しゆん</sup>のことで  
何が何やら……

…え？  
だから  
アサシンを倒した  
サーヴァントだ  
見ていたのだろう？

肝要<sup>かんよう</sup>なのは  
そっちだ  
たわけ



あのなあ  
余が戦うとすれば  
それは勝ち残って  
生きている方であろうが

そつちを仔細に  
観察せんで  
どうする

とにかく  
その金ピカだかに  
気になるところは  
なかったか？

そそんなこと  
言ったって……

あんな一瞬  
一瞥何が

でもあの  
山のように  
降り注いだ  
宝具の威力

……なあライダー  
サーヴァントの宝具って  
普通は一つだよな？

原則としてはな  
ときには二つ三つと  
宝具を揃えた  
破格の英霊もいる

例えばこの  
イスカンダルが  
そうであるように

そういえば……  
そんなこと言ってたっけ

まあ 宝具を数で  
捉えようとするのは  
意味が無い

宝具というのは  
その英霊にまつわる  
故事や逸話が  
具現化したものだ

それは  
武器かもしれないし  
特殊能力だったり  
一種の攻撃手段  
といった場合もある

……じゃあ  
剣を十本も二十本も  
投げつける宝具  
っていうのもアリか？

無数に分裂する剣か

ふむ有り得るな  
それは単一の宝具  
として定義する  
能力だ

やはり  
あの全てが  
宝具だったって  
いうのか……？

まあ良いわ

おおあつ！

敵の正体などは  
いずれ相見えた時に  
知れること

分裂じゃない  
あれは最初からそれぞれが  
個別の武器だった

そんなんで  
いいのかわ!!

良い!

むしろ心が躍る!!

食事にセックス  
戦いに戦——  
何事についても  
存分に愉しみ抜く!

セ……

それが人生の  
秘訣であろう!

さあ  
ではそろそろ外に  
楽しみを求めて  
みようか

出陣だ坊主  
支度せい



ふざけるなよ!

どこか適当に  
そこいら辺へ

しゅ 出陣つて…  
どこへ?

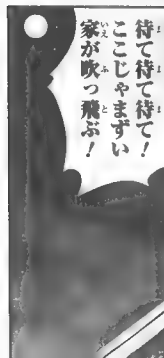


トオサカの居城を  
見張っていたのは  
貴様だけではないまい

となればアサシンの死も  
既に知れ渡っているよう

これで闇討ちを用心して  
動きあぐねていた連中が  
一斉に行動を起こす

そ奴らを見つけた  
端から狩ってゆく



待て待て待て!  
ここじやまずい  
家が吹っ飛ぶ!



余はライダー

こと「脚」に関しては  
他のサーヴァント  
より優位におるぞ



見つけて狩るって…  
そんな簡単に  
言うけどな…



-161:26:29









昨夜  
遠坂邸で動きが  
ありました

映像は記録したので  
確認してください

それと装備品一式は  
全て到着しています

わ  
か  
解  
つ  
た

ま  
ず  
状  
況  
を

貴様は我を  
見るに能わぬ

虫ケラは虫らしく  
地だけを眺めながら死ぬ

ブブブブ

……この展開

どう見る？

出来過ぎのように  
思えます

待ち構えていた  
とおもいませんか

相手は気配遮断スキルを  
持つアサシンです

……遠坂は事前に  
侵入者があることを  
承知していたのではないかと

そう考えるとますます  
納得いかない映像だな

待ち伏せするほどの  
余裕があったなら  
どうして遠坂は  
サーヴァントを晒す  
ような真似をした？

正体が知れば  
その英霊の伝承から  
手の内や弱点がばれる

だからこそサーヴァントの  
真名は何としても  
隠し通さねばならないんだ

普通に考えれば  
これは愚作でしかない

見せなくてもいい  
ものを見せたのは――

最初から見せる意図が  
あったということでしょうか

だろうな

そうすることで  
誰にどういう  
メリットがあったのか  
それを考えれば  
自ずと答えも出る

アサシンのマスターは  
どうなった？

昨夜の内に教会に避難し  
監督役が保護下に置いた  
旨を告知しました

言峰綺礼という  
男だそうです

舞弥  
冬木教会に使い魔を  
放っておけ  
ひとまず一匹でいい



……いいのですか？

教会の不可侵地帯に  
干渉するのは  
禁じられている  
はずです

監督役の神父に  
バレないよう  
ギリギリの距離を  
うろつかせておけ

コントロールも  
本腰は入れず  
片手間でな 実際には  
何もなくていい

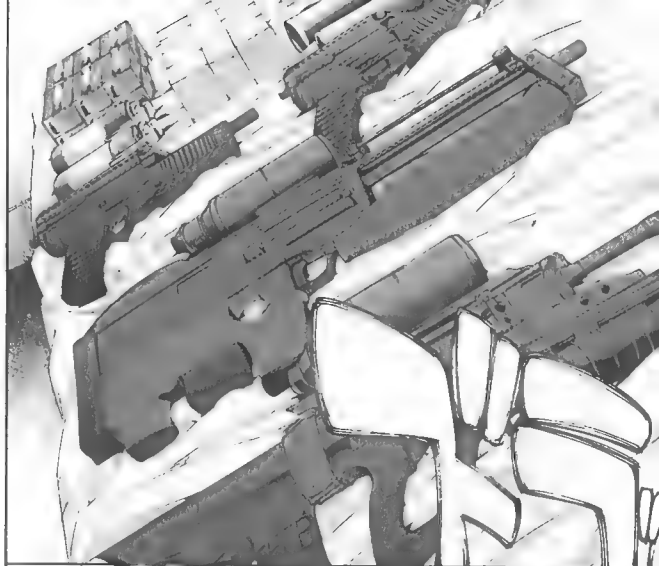
教会を監視する  
のではないのですか？

監視しているフリをする  
だけでいいんだ

むしろ絶対に  
見破られないぐらいに  
注意深く隠しておけ

……はいわかりました





およそ魔術師という  
生き物の最大の弱点は  
その驕慢による  
油断にある

おのれを脅かすもの  
同じ魔術師以外  
有り得ないと  
そう信じて  
疑わないでいるんだ



だが  
彼らは特殊技術

を視している

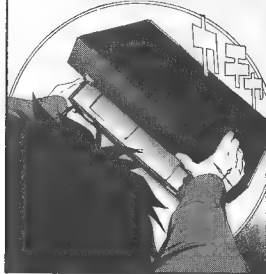
人間を魔術に  
頼ることもなく  
とれだけのことが  
出来るのか――

多くの魔術師が  
それを正しく認識していない

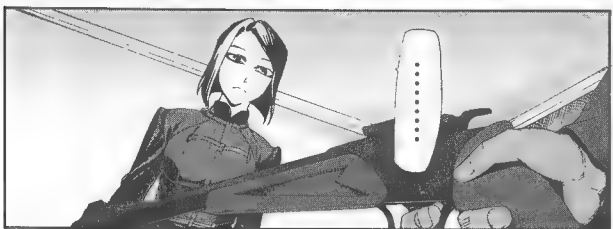
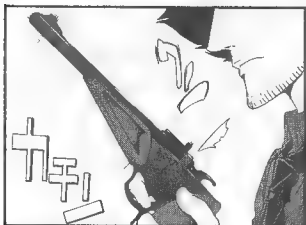
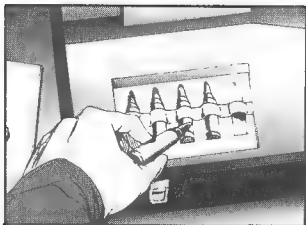
射程500メートルで  
零点修正しておきました  
確認しますか？

いやいいだろう

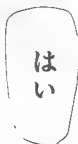
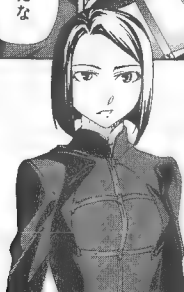
預けておいたやつは  
どこだ？















……いま必要な  
ことだけに意識を  
向けてください



余計なことは  
かんが  
考えないで

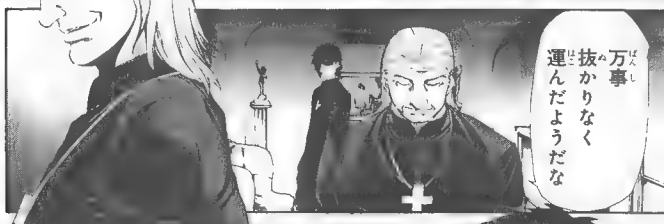
戦場で拾った少女――

それをこんな風に  
仕上げてしまったのは  
他でもない自分だ

だが僕にはこの女が必要だ

魔術師殺し衛宮切嗣  
という機械を止しく  
動作させるために  
不可欠な補助機械

久宇舞弥というこの女が



万事<sup>ばんじ</sup>は  
抜<sup>は</sup>かりなく  
運<sup>は</sup>んだようだな



父上  
ちちうへ

ない

誰かこの教会を  
みははっている者は？  
だれ  
みはは  
この  
教会を  
もの  
みはは  
っている  
者は？

ここは中立地帯として  
ふかしく保障されている  
ちゅうりつちたい  
として  
ふかしく  
保障されて  
いる

余計な干渉をした  
マスターは教会からの  
まじかた  
諫言があるからな  
いけい  
かんどう  
マスターは  
教会から  
の  
まじかた  
諫言が  
あるから  
な

では  
安泰ということですね  
では  
あんたい  
という  
こと  
です  
ね

そんな面倒を  
承知の上で  
敗残者に関心を  
払うものなど  
いる道理があるまい  
そんな  
めんどう  
を  
しんち  
の上で  
はくせん  
しゃ  
に関心  
を  
はらう  
もの  
など  
いる  
道理  
が  
ある  
まい

## 第5話

念のため  
警戒は怠るな  
常に一人はここに  
配置するように  
ねん  
のため  
けいけい  
は  
おこ  
るな  
常に  
ひとり  
は  
ここに  
はく  
ち  
する  
ように

それと現場を  
監視していた者は？  
それ  
と  
げんば  
を  
かん  
し  
して  
いた  
者は？  
もの

私でございます  
わたくし  
で  
ござ  
います

アサシンの死の現場には  
四種類の異なる  
使い魔の気配が

少なくとも四人の  
マスターがああ光景を  
見届けたものと  
思われます

ふむ……  
一人足りないか

父上  
「罫盤」は間違いなく  
七体のサーヴァントの  
現界を感じて  
いたのですね

ああ 相違ない

一昨日  
最後の「キャスター」が  
現界した

相変わらず  
マスターからの  
名乗り出はないが

此度の聖杯戦争の  
サーヴァントはすべて  
出揃っているはずだ

そうですか

そもそも今の局面で  
御三家の監視は  
聖杯戦争に参加する  
マスターとして当然の  
策でございましょう

結果として  
問題ないかと

その程度の用心も  
怠る者は我らアサシンを  
警戒する神経など  
持ち合わせておりません

うむ

死なせて惜しかった男か？  
アレは

あのザイドは  
取り立てて得手のない  
一人でした

彼奴一人を  
喪ったところで  
我々の総体には  
大した影響も  
ございません

が――

が何だ？

――大した影響で  
ないとはいえ  
それでも損失は  
損失でございます

言ってみれば指の一本が  
欠け落ちたようなもの

無益な犠牲であつたとは思いたくありません

指一本の犠牲で  
お前たちは他のマスターを  
まんまと欺いたのだ

すでに誰もが  
アサシンは  
脱落したものと  
思っているだろう



どのような形であれ  
ともかくこれで  
戦端は開かれたわけだ

はっ  
仰せの通りで  
ございます

これで陽身を  
主戦路とする  
お前たちが  
どれだけ優位に  
立てたと思う？

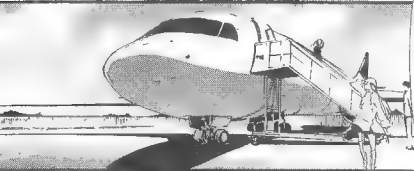


いよいよ始まるぞ  
第四次聖杯戦争が

どうやらこの老骨も  
今度こそ奇跡の成就を  
見届けられそうだな



ここが切嗣の  
生まれた国……



どう？  
セイバー

そら  
たび  
空の旅の  
かんぞう  
感想は



別段  
どうということも

期待していたよりは  
味気ないものでした

あら残念  
もつと驚いたりして  
くれるかと思つたのに

……さては私を  
原始人か何かと  
勘違いしていますね

サーヴァントとして  
現界した私には  
現代の知識が  
与えられています

——それに  
セイバーのクラスにある  
私には騎乗スキルが  
備わっています

いざとなれば  
この飛行機という  
機械を乗りこなす  
ことも可能です



操縦——  
できるの？

おそらくは

私の騎乗というスキルは  
乗り物という概念  
すべてに適用される  
能力ですから

鞍に跨り  
手綱を振れば  
あとは直感で  
何とかできます



？



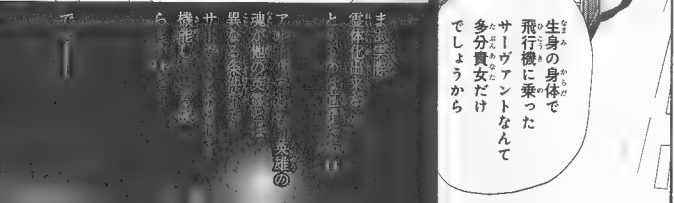
でも少し残念ね

……その点は  
申し訳なく思っています

私が不甲斐ないばかりに……

あら いいのよ

気にしないで  
そういう意味じゃないの



生身の身体で  
飛行機に乗った  
サーヴァントなんて  
多分貴女だけ  
でしょうから

英雄の  
魂が他の英雄と異なるとは  
異なる条件で

サ  
機  
能

で

セイバーと二人で  
旅が出来たのは  
とっても楽しかったわよ

あなた  
いくら見ても  
飽きないし

?

アイリスフィール  
何か変わった事でも?

ううん  
何でもないのよ?  
気にしないで……

貴女が  
そういう笑い方  
するときは  
何か含むところが  
あってのこと

何でしょう  
正直に  
言ってほしい

リフト

あなたが  
ずっと実体なのは  
なにも悪いこと  
ばかりじゃない  
ってこと

男装には  
慣れていますが

……アイリス  
フィール

おかげで私には  
あなたの服を選ぶ  
楽しみが増えたから

本当に私のこの格好は  
この時代の往来に  
馴染むものですか?

ええ……多分

私の格好と釣り合いを  
取って選んだ服  
なんだけれど







大丈夫よ  
彼の方から私たちを  
見つけてくれる  
はずだから

すでに切嗣も  
この地に辿り着いている  
手筈でしたね？

合流の算段はしなくても  
良いのですか？



……では  
今後の方針は？

そうねえ……  
当面は状況の変化を  
見極めながら  
柔軟に臨機応変に

つまり  
何もすることが  
ない？



……でもそれじゃあ  
勿体ないわよね

折角こんな  
遠い国にまで  
来たんだし

どっ……どこか  
敵のサーヴァントを  
見つける当てでも？

ううん まさか

ねえセイバー

折角せつかくの機会きかいなんだから  
この街まちを見物みぶつして  
おきましようよ

きっと面白いおもしろと思うわおも

アイリスフィール  
油断ゆだんは禁物きんぶつです

こうして冬木ふきの地ちに  
踏み込ふみこんだ以上いじょうは  
もう敵地てきちにいるものと  
覚悟かくごしてください

聖杯戦争せいはいせんそうは  
もう始はじまっています

ええそこは  
セイバーが頼たのりよ

もし近きづく  
サーヴァントサーヴァントがいれば  
気配きはいでそれと  
判わるんでしょう？

それはまあ……  
そうですが

私の場合  
感知できるのはおよそ  
半径200メートル程度が  
限界です

それも相手が何らかの  
能力を行使している  
場合に限りです

そう……

でもそれなら  
今この場で  
私たちが狙っている  
サーヴァントは  
いないのね？

アイリスフィール

やはりどこかに  
拠点を構えてから  
切嗣も交えて一旦  
方策を詰めるべきです

この街の外れには  
アイントベルンの  
用意した城が  
あるのでしょうか？

はい  
しかし――

じゃあこつちから  
誘い出すぐらいの  
つもりで行きましょう

どうせ捜す当て  
なんてないんだし

………

それはまあ  
……  
そうだけれど

この街を見て回るのに  
どうしてそう  
拘るのですか？

私ね……初めてなの

私はこの土地について  
聖杯から知識を  
与えられています

アイリスフィール  
ここはさほど  
大きな都市でも  
観光地でもありません

とりわけ見るような  
名所などないはずで

ううん  
そうじゃないの

そうじゃ  
なくて――

………

私――  
外に出るのが  
初めてなの





もちろん  
何も知らないわけ  
じゃないのよ？

特に切嗣が  
来てくれているから

彼は映画とか写真とか  
外の世界の景色や出来事を  
いっぱい私に教えてくれた

ニューヨークだとか  
パリだとか大勢の人が  
色々な暮らしをしている  
世界のことを

もちろん  
この日本についてもね



でも……  
この目で本当に世界を  
見るのはこれが初めて

だから嬉しくて  
ついはいやぎ過ぎ  
ちゃったみたい



御免なさいね

……

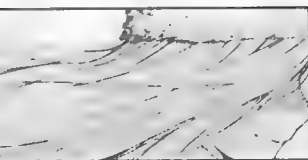


それでもエスコートは  
騎士の役目  
及ばずながら努力します

私とてこの街を歩くのは  
初めての経験ですが――



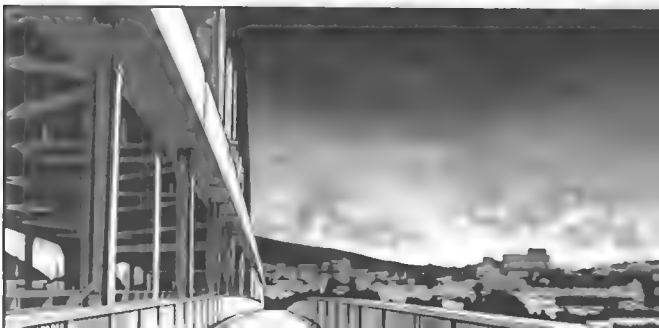
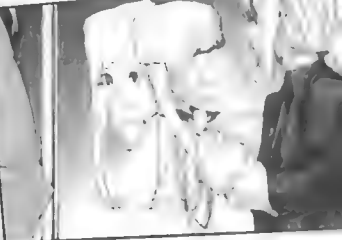
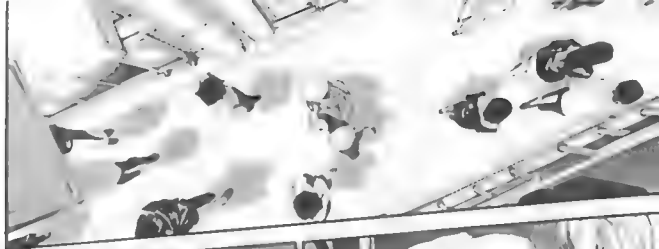
……セイバー？



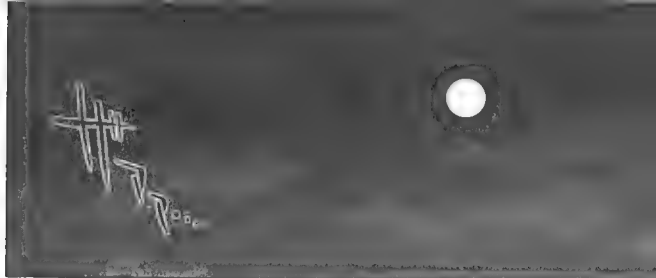
さあどうか



――ありがとう







セイバーは  
海が好き？



好きかと言われると  
どうか……

私の時代の  
私の国では……  
海の彼方はつねに  
英敵の押し寄せてくる  
場所でしたから

忌々しく思う  
ことはあっても  
憶れたことは  
ありません



まあ  
それはそうですね

アーサー王として  
生きたあなたには  
殿方との違い引きを  
楽しむなんて余裕  
なかったのよね

……何だか申し訳ないわ  
あなただって同じ女なのに



そう……



アイリス  
フィールこそ

ほんとうは私ではなく  
切嗣と街を歩き  
たかったのでは  
ありませんか？

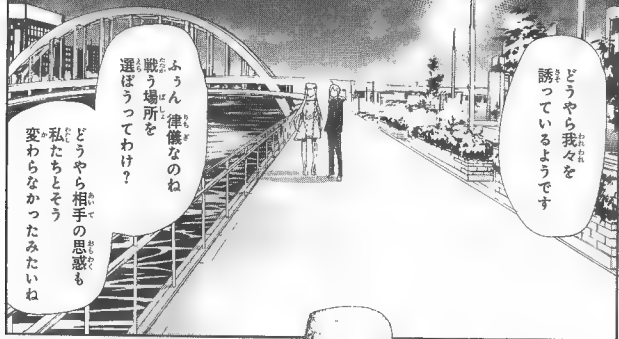


あの人は……駄目よ

辛い想いを  
させてしまうわ



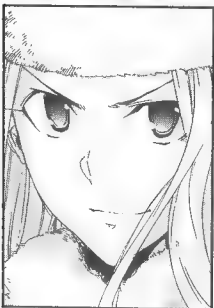




どうやら我々を誘っているようです

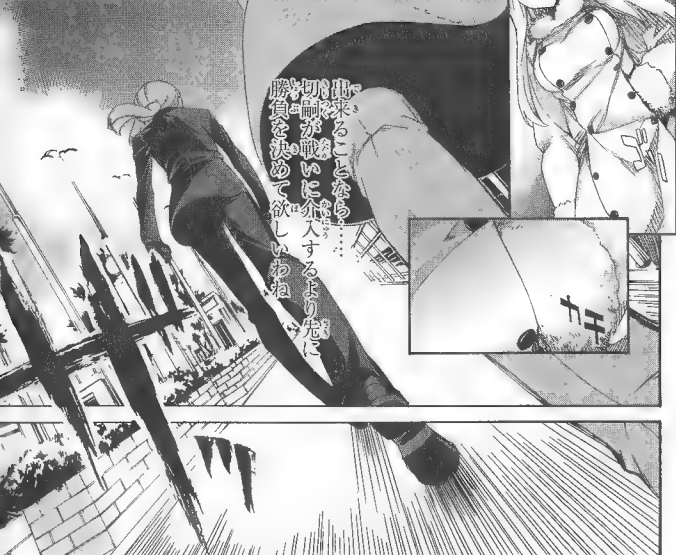
ふうん 律儀なのね  
戦う場所を  
選ぼうってわけ？

どうやら相手の思惑も  
私たちとそう  
変わらなかったみたいね



セイバー  
あなたと同じ  
真つ向勝負の  
サーヴァントと見て  
いいんじゃない？

となると  
クラスはランサーか  
ライダーですね  
相手に取って不足はない



-154:15:41





まあ待て  
落ち着きのない奴め

坐して待つのも  
戦のうちだぞ

そんなに  
手持ち無沙汰なら  
肩けてある本でも  
読んでおれ

良い書物だぞ

!

ILIAS

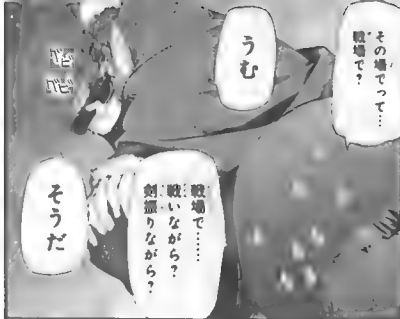
—イリアス—

ライダー……

世界地図は  
まだ分かるけど  
なんでこんな本  
持ってきた？

イリアスは  
深遠だ

戦いの最中にも  
ふと詩歌の一節が  
気になって仕方が  
なくなる時が  
ままあるのでな



その場でって……  
戦場で？

うむ

戦場で……  
戦いながら？  
剣振りながら？

そうだ



そんなときは  
すぐさまその場で  
読み返さんと  
気が済まんだ



ど……  
どうやって？

右手で剣を  
執るときは左手で

左手が手綱を  
握るときは  
隣の百姓に  
音読させた



驚くようなこと  
ではあるまい

世の時代の  
武人は皆  
行住坐臥が  
戦とともにあった

飲み喰らいながら戦い  
戦いながら女を抱き  
眠りながらもまた戦う

その程度  
誰でも出来て当然だ

あ  
あたり前だ  
まへ  
ば  
ちの  
馬鹿者

ぎやあ~~~~ッ!!

この程度の冗談ならば  
誰が笑い飛ばしたのは  
真実だ

だがな坊主<sup>ぼうず</sup>

この程度の冗談<sup>じょうたん</sup>ならば  
誰<sup>だれ</sup>もが笑い飛ば<sup>わらひとば</sup>したのは  
真実<sup>しんじつ</sup>だ

青<sup>あお</sup>くなって呆<sup>あは</sup>けるようでは  
まだまだ肝<sup>かん</sup>が細<sup>こ</sup>すぎるのう

あ あ あ

イギリスに  
帰りたい……

そう急くなと  
言うておろうに

ほれ  
状況もようやく  
動きそうだが

……は？

今しがたまで  
気付かなかったが――

その公園に  
どうやらもう一人  
別のサーヴァントが  
おった様子だ

いつも気配を  
隠しておらん  
それどころか  
我らが追っていた  
奴に近づいていく

じゃ  
じゃあ――

二人ともどうやら  
向こうの港の方に  
向かうらしい

売り言葉に買い言葉  
というわけだ

これは 戦やらかすと  
見て良からう

良いから早く帰ろして……



今日一日この街を  
徘徊歩いて過ごしたものの  
どいつもこいつも穴熊を  
決め込む暇はばかり

よくぞ来た

俺の誘いに応じた  
猛者はお前だけだ







その清澄な闘気……  
せいちよう どうき

セイバーと  
お見受けしたが  
いか  
如何に？

Fate

フェイト/ゼロ



Staff / 錦山まる

## Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

フェイト ゼロ  
**Fate/Zero ①**

漫画

しん  
**真じろう**

原作：虚淵玄(ニトロプラス)/TYPE-MOON

2011年9月3日 初版発行

発行者

**新名 新**

発行 株式会社**角川書店**

〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3 電話／(03)3238-8541(編集)

発売 株式会社**角川グループパブリッシング**

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話／(03)3238-8521(営業)

<http://www.kadokawa.co.jp>

装幀・デザイン

**和田幸男**

印刷

**大日本印刷株式会社**

製本

**大日本印刷株式会社**

初出／『ヤングエース』11年2月号～5月号



本書の無断複写・複製・転載を禁じます。落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2011 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Shinjiro 2011 ©Nitroplus/TYPE-MOON

ISBN978-4-04-715771-2 C0979